

ほっぷ・ステップ・Jump!

(保っ父)

1999.05.12 Vol.40 発行:北海道の子どもと保父の会

4月例会報告

16日7時からリフレサッポロにて、畠山・家村・藤原・西村の4名のみにて、行いました(桑原・浅利の2名からは欠席の連絡あり。会員の方は出られないのであれば、せめて欠席の連絡を会長までしてください)。

内容は予定通り「絵本でいこう」ということで、畠山氏のレジュメに沿って、それらの絵本を見て、笑ったり、感心したり・・・、絵本の世界の奥の深さを堪能しました。

私にとっても、知らない絵本が多々あったので、とてもおもしろく、たかが絵本とは決して思えなかったのです。一冊一冊の絵本に込められた作者の魂が畠山氏の話の聞いていると、リアルに伝わってきました。

その後は、一人一人の「お気に入りの絵本」を紹介し合ったのですが、4人ともそれぞれにお気に入りの世界があることは、とても興味深かったです。

次回は「絵本でいこうPART2」を、5月14日から5月28日に予定を変更して、リフレサッポロにて行います。時間は7時からです。

“保育における絵本の在り方”をメインに話を深めていきましょう。

畠山氏レジュメ

H11.4月 保父会 「絵本でいこう！」 ~畠山

身近な生物を題材に・・・

『みみずのかんたろう』 たじまゆきひこ くもん出版

~なかなか、みみずを題材にした絵本はないし、絵の迫力にホレてしまった。ストーリーは、ちょっと子どもには難しいかもしれないし、自分としてもちょっぴり照れくさいところもある・・・。

こわいけど、見てみたいヨルの世界

『夜がくるまでは』 イヴ パンティング ブックローン出版

『ニコラズグリーブのゆうれい』 T.ジョンストン ブックローン出版

~本当に子どもたちには、おばけなどのもののけが見えているのでは、と思う時がある。よくわからないけど、子どもたちにとっては親しみやすいようで、年中~年長はストーリーもなんとかついてこれる。個人的には、かわいいおばけの絵本よりも(見たことないのでわからないが)本当にリアルなものを、子どもたちに与えてみたかった。

なんだかうまそう・・・

『ぎょうざつったの』 きむらよしお 福音館書店

~料理つくろうと思う気持ちが、保育園での料理よりもずっと自然で楽しそう。ラストもなかなか良いが、とにかく絵がすごい。超デフォルメ。

単純に「絵」「文章のリズム」を楽しむ

『とらのゆめ』 タイガー立石 福音館書店

『これは、のみのぴこ』 五味 太郎 サンリード

~何も考えなくても、感性で見られる(聞ける、読める)本。子どもたちも小さい子から大きい子まで楽しめる。

まさに子どもたちの姿

『11ぴきのねこ ふくろの中』 馬場のぼる こぐま社

～「～するな」と書いてあるとやりたくなくなってしまうのが子どもの性(さが)。いたずら好きで、やりたいこと、興味のあるものには、とっても貪欲。卒園式の在園児の出し物で劇をやった。

とぼけたおかしさ

『きょうは、ワニようび』 井上よう子 ひさかたチャイルド

『?あつさのせい?』 スズキコージ 福音館書店

～どちらも内容はそれぞれ違うけど、本当だったらとんでもないこと、やってはいけないこと(わがまま、落ちているものを自分のものにする)を説教じめることなく、ストーリーの面白さで、妙なおかしさで見入ってしまう。不思議です。

大人の魅力・・・

『チョコレートを食べたさかな』 みやざきひろかず ブックローン出版

『大千世界の生き物たち』

～とにかく、見てから。

-まとめ-

むかし話しや母親(一般的な女性)があたえる絵本は、どこにいてもわりとある。でも、自分で、この絵本の楽しさを本気で共感したいという本はなかなかなかった(私の場合です。あくまでも・・・)。自分が楽しめて、子どもたちも楽しめる本をこれからも探し続けていきたいと思っている。とってもこ～い絵本をね。

年間スケジュール変更について

・7月の例会は 7月24日(土)、25日(日) オタモイファミリーサマーキャンプ

幹事 家村

・8月の例会は、ありません。

おしらせ

平成11年度の会費(2000円)は、6月18日(金)までとなっています。現在のところ、総会出席者プラス数名の納入にとどまっています。昨年迄の分の未納の方はもちろんのこと、他会員の方もお早めに納めてください。よろしくおねがいします。

・・・西村は今年、1才児クラスとなりました。久しぶりの乳児保育。年長 年中 年長の次という事で、体がー、心がー、ついていかなかった一週間。正座によってヒザのお毛々はなくなり、せせこましい動きに筋肉がついていけなくなり・・・、まあその内慣れていくのでしょうかネ。それにしても精神的につかれるナ～。常に気をはって子どもを見ていけなくてはならないしネ。それがいい所でもあるのだけどサ。一週間もたつと嬉しいことは、私が「おはようー」とクラスの戸を開けると、「おはよー」と何人もの子が走ってきて、抱きついてくれる。ホントかわいいし、うれしいネ! なかおあきらくん、みきのりへいくん、あつみきよしくん、ふくのかみちゃん、だいちやすおくん、しゃちょうまんゆうきくん、等々個性あふれる10名。

さあ、たのしんでいこー! VIVA アミーゴー! 西村

パパは保父さん - 保父の育児日記 14 -

発寒ひかり保育園 西村 猛

～祝 お姉ちゃん 友希は3才～

友希は3才になった。かみさんのお腹には赤ちゃんがいることも、解るようになっていた。「赤ちゃん、おねえちゃんだよ～」「あ、うごいてる～」とケラケラ笑いながら、妊婦ダヌキの周りを踊りまくる日々。かみさんの腹が大きくなってからというもの、「パパ、だっこ～！」とせがんでくる。「ママは抱っこできないんだよネ」とよ～く解っており、これはパパにとっても今まで以上に友希とのボディランゲージがあって、うれし～の一言。ママが重戦車のように動きが鈍くなってくると「よーし、パパと公園行こう！」と2人っきりでソリあそびに出かける。2人乗りに、うしろ滑り、はたまたウルトラマンにスノー滑りとパパ本領発揮！友希もキャーキャー叫びながら「もーいっかい！」と大満足。同じくソリあそびに来ている他の親子とは、遊びがダンゼン違う。パパ優越感のひとつときである。とはいうものの、長い時間パパと友希が2人っきりになるのは、かみさんがたまに飲み会に行く時ぐらいなもの。かみさんの出血入院の時の夜を考えると（にて）、産後の入院時の生活にも少々不安が残っていた・・・。

2月3日、倅汰出産！サアやってきた友希との生活。東京に行っていたチャーチャンも戻ってきたものの、私の祖父の看病の方に忙しくなってしまった。ということで、昼も夜もほとんど友希との生活になったわけだ。職場には休みをもらい、気は楽であったのだが、2人っきりは実にヒマになるものである。朝、食事を摂り、まず片付けや掃除、友希もハタキを持ってパタパタ楽しんでいる。そこまではいいのだが、掃除が終わると、ハテ、どうしよう。雪あそびもしたいが、倅汰やかみさんにも会いに行きたい。結局、病院へ。しばらく再会を喜び、「また夕方くるわー」と昼食を摂って家に帰り、昼寝タイム。起きておやつ食べ、また病院へ。帰ってくるとチャーチャンも戻っており、夕食、そしてお風呂。あそんで眠りにつく。いつの間にかこれが生活パターンになっていた・・・。この生活の中で、一番問題だったのは眠ること。またまた「チャーチャンとねるー」の叫びが出るのではないかと思っていたのだが、そこは私と友希の絆が強くなった証なのだろう。その叫びがない！これはうれしい。「初日から順調！」と思いきや、布団に入ると「ママ～」「ママ～」の大合唱。私と一緒にいよう！と思っ



てくれているのであろうが、淋しいものは淋しいのであろう。なかなか泣き止まない娘を見て、ハタ！とひらめきが出た。「そうだ、あれを使おう」その「あれ」とは・・・。ジャジャジャーン！「えみちゃん人形」参上！！かみさんが学生時代、人形劇の宿題として製作したスポンジ製そっくり人形（ちなみに「たけちゃん人形」もあるのだ！これはくどいぞー）。「友希、ゆき、ママがいるぞー」と涙でくしゃくしゃ顔の娘の手に持っていき。友希は一瞬、「なんじゃこりゃ」という表情となったものの、その人形を自分の枕の横に置いて「ママだー」と少々安心。「効果アリ！」と思ったものの、まだしくしくの娘に「パパの手握って一緒にねようね」でもう一安心。「パパ仕事いれないから、ずーっと一緒にいるよ」でまた一安心。よし、いいぞいいぞ！「おしっこしたくなったら、パパ起こしてね」でこれまた安心。友希ポツリと「パパ、ずーっといてくれるの？」の言葉。「うん、ずーっといっしょにいるよ」と絵本の世界のような空間となり、抱き抱えるように一緒に就寝した初夜だったのです。それからというもの、えみちゃん人形は夜のお供となり、徐々にボロボロとくずれていく、そのスポンジの顔。おー、恐ろしや（一週間後、確実にその口は裂けていた・・・）。

ある日、「ラーメンたべにいこう」と、あるラーメン屋へ（とんこつベースのみそ味がたまらなくうまい店）。カウンターしかなく、しかも平日なので客もまばら。友希もカウンター1席分に座りました。その回転式の椅子をクルクルさせる娘。突然大声で「おやじよー、おいおやじ、つつつたべるべ～、よ～」と私に向かって叫び出したのです。これには私はウヒョ～と驚き、店主はクスクス笑い出すは、店内が「なにごとか状態！」。私が「なに言ってるんだー」と半分笑いをこらえながら言っていると、またもや「おやじ～、おやじ～」と連呼。本人も周りの反応がおかしかったのか、味を始めてしまったのでした。まあ、思えば私が自分の父親に言っている口調なんだよなー。責めるに責められず、とにかく笑った、というかニガ笑いのひとつときでした（ちゃっかりしたもので、ラーメン食べ終わるとこれまた大声で「またつつつたべるべ～」と最後も決めてくれた娘でありました）。

夕食後はゆったりとあそべる時間。「よーし、今日は怪獣ごっこだ！！」とマイコレクションのゴジラとバルタン星人を出して、「グァ～ガァガ～」「フォォフォォォ～」と取っ組み合わせて、興味を引かせるかわいいパパ。友希、すかさずそのエサにひっかかり、こちらへとやってきた。「よーし、戦い始めるべ！」と目をランランと輝かせて、少年に戻っているパパ。友希、バルタンを選び手に持つ。パパ、ゴジラで対抗。「いくぞー」と意気込むパパ。さあ、友希どうする。友希「こんにちば、かいじゅうちゃん」とバルタンにおじぎをさせ、「いっしょにおどりましょ」とゴジラの短い手とバルタンのハサミをくっつけさせて、おどりをやらせ始める・・・ガク～ン。倅汰は怪獣ごっこ、やってくれ～。とまあ、いろいろなこと

がこの一週間ありました。最後の極めつけは、かみさんの退院日前日、祖父が亡くなり、嬉しいことと、悲しいことが一緒になり、とても忙しくもなったのです。友希はこの周りのドタバタのせいか、疲れもたまったのか、自家中毒になり、病院へ。点滴2本のお世話になったり・・・(あの泣き声っていやなものだ～)。しかし、この一週間は私にとっても、友希にとっても、家族にとっても、親子という絆を今まで以上に強くしたものとなったのは、まちがいありません。いつもそばにいる母親が近くにいない時に、父親と共に喜びも悲しみも乗り越えてくれたこと、これは2児のパパとなった私のスタートとして、とても大切な時であったと嬉しく思っている、32才であります。 BY: SAM (FROM TYM)

*病院にて初めて倅汰を抱いているママの姿を見た友希・・・、その時の視線がとても印象深かった。淋しさというか、ジェラシーというか、なんとも悲しそうな瞳、姉への第一歩。友希、パパはいつも友希のそばにいるぞー！！

- 完 -

P, S, 先日、幼稚園の一日入園があった。教室に親元を離れて入っていた友希。すぐさま「ウェーン！！」とだれよりも早く泣いた良い子であります。

ワープロ担当者のつぶやき・・・

GWも終わり、札幌は春から初夏へと過ごしやすい季節になってきました。花粉症に苦しむ人にとっては辛い時期ですが、僕にとっては暖かさが腰痛を和らげてくれる嬉しい季節なのです。

この時期になると、いつも18才の頃を思い出します。高校を卒業し、札幌に出てきて新しい環境に少しずつ慣れてきた頃。友達(男ですが・・・)の家に泊まりにいった次の日の朝、彼は「今日、お祭りのバイトなんだ！」と僕をひとりアパートにおいて部屋を出ていったのです。その大胆さと、こんな時期のおまつりって？という思いと、窓越しに見えた晴れた空・・・、ああ、楽しき青春時代の幕開けを感じさせてくれた出来事でした。

それから一度もライラックまつりを見ることもなく、時々飲む程度の付き合いになっていた友達からは、4月に旭川に転勤になったという葉書が来ました。

あれから15年――、就職、保父の会、野球、恋愛、結婚、育児、保育園・・・、そしてこれからの何十年――、どう生きていこうか、なんて、ふと考えたくなるような時なのです。バカ話でもいいけれど、たくさんの人生の先輩に歩いてきた道のりを聞いてみたくありませんか。聞きたくなったら、例会へ・・・(お待ちしてまーす!)。 K

事務局より

旧年度及び平成11年度の年会費を受付ています。事務局宛郵送か、銀行振込でお願い致します。

銀行：北海道銀行 旭ヶ丘支店

口座：普通106 0569312

名義：北海道子供と保父の

会

事務局 001-0020 札幌市北区北20条西3丁目19番地 幌北中央保育園内